

R6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	地歴・地理探究（普・理（文系））	単位数	4	担当者	高橋
---	----	-------	------------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図帳 最新版（帝国書院） 新詳地理資料 COMPLETE（帝国書院） WinningCOM. -PASS 地理の整理と演習 2024（とうほう）

2. 科目の目標

2年までの基本的な事象を元に、各地域の地誌を総合的に学習する。現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
--

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	第三次産業 交通・通信	第三次産業の現状と進展を理解する。 交通機関の特徴・変化を理解する。	70	既習範囲
	5月	貿易・経済 世界の人口問題	現代世界の貿易の特徴を理解する。 人口問題の現状を捉え、問題解決への取り組みを考察する。		
	6月	村落・都市	集落の特徴を理解する。都市問題の特徴を捉え、問題解決への取り組みを考察する。		
	7・8月	生活文化、民族・宗教 東アジア	生活文化、民族・宗教の地域の特徴を理解する。 東アジアの特徴を理解し、世界経済に与えた影響を考察する。		
	9月	東南アジア 南アジア	東南アジア・南アジアの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。		既習範囲
後期	10月	西アジア・中央アジア ヨーロッパ	西アジア・中央アジア・ヨーロッパの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。	70	既習範囲
	11月	ロシア アングロアメリカ	ロシア・アングロアメリカの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。		
	12月	ラテンアメリカ オセアニア	ラテンアメリカ・オセアニアの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。		
	1月	演習	現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を身に付ける。		
	2月 3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や地球的課題への取り組みなどを理解しているか。	定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。
思考・判断・表現	地理に関わる諸事情について、より良い社会の実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追求・解決しているか。	
主体的に学習に取り組む態度	地理に関心をもち、意欲的に課題を追求する態度があるか。	

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

教科書や資料を参考に、授業時間内での理解を意識すること。ひとつの事象に囚われず、体系的に内容を理解すること。課題や考查を通して自分の理解度を確認し、復習を通して理解を深めること。

R6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	地歴・地理探究（普(理系)）	単位数	2	担当者	高橋
---	----	-------	----------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図帳 最新版（帝国書院）
 新詳地理資料 COMPLETE（帝国書院） WinningCOM. -PASS 地理の整理と演習 2024（とうほう）

2. 科目の目標

2年までの基本的な事象を元に、各地域の地誌を総合的に学習する。現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	第三次産業 交通・通信	第三次産業の現状と進展を理解する。 交通機関の特徴・変化を理解する。	35	既習範囲
	5月	貿易・経済 世界の人口問題	現代世界の貿易の特徴を理解する。 人口問題の現状を捉え、問題解決への取り組みを考察する。		
	6月	村落・都市	集落の特徴を理解する。都市問題の特徴を捉え、問題解決への取り組みを考察する。		
	7・8月	生活文化、民族・宗教 東アジア	生活文化、民族・宗教の地域的特徴を理解する。 東アジアの特徴を理解し、世界経済に与えた影響を考察する。		
	9月	東南アジア 南アジア	東南アジア・南アジアの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。		
後 期	10月	西アジア・中央アジア ヨーロッパ	西アジア・中央アジア・ヨーロッパの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。	35	既習範囲
	11月	ロシア アングロアメリカ	ロシア・アングロアメリカの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。		
	12月	ラテンアメリカ オセアニア	ラテンアメリカ・オセアニアの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。		
	1月	演習	現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地誌的に考察する。現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を身に付ける。		
	2月				
3月					

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や地球的課題への取り組みなどを理解しているか。	定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。
思考・判断・表現	地理に関わる諸事情について、より良い社会の実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追求・解決しているか。	
主体的に学習に取り組む態度	地理に関心をもち、意欲的に課題を追求する態度があるか。	

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

教科書や資料を参考に、授業時間内での理解を意識すること。ひとつの事象に囚われず、体系的に内容を理解すること。課題や考査を通して自分の理解度を確認し、復習を通して理解を深めること。

R6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	地歴・日本史探究（普・理）	単位数	4	担当者	菊池
---	----	-------	---------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

詳説日本史 日本史探求(山川出版)、新詳日本史(浜島書店)

2. 科目の目標

わが国の歴史について中世までを中心に広い視野に立って総合的に学習、考察することを通じて、わが国の理解と歴史的思考力を養い、2年次の学習とつなげ国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
--

3. 学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	幕藩体制の動揺	幕政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化	70	既習範囲
	5月	近世から近代へ	開国と幕末の動乱 幕府の滅亡と新政府の発足		
	6月	近代国家の形成	明治維新と富国強兵 立憲国家の形成		
	7月	近代国家の展開	日清・日露戦争と国際関係 第一次世界大戦と日本		
	8月		ワシントン体制		
	9月	近代の産業と生活	近代産業の発展 近代文化の発達 市民生活の変容と大衆文化		
後期	10月	恐慌と第二次世界大戦	恐慌の時代 軍部の台頭 第二次世界大戦	70	既習範囲
	11月	占領下の日本	占領と改革 冷戦の開始と興和		
	12月	高度成長の時代	55年体制 経済復興から高度経済成長へ		
	1月	激動する世界と日本	経済大国への道		
	2月		冷戦の終結と日本社会の変容		
	3月	1年間のまとめ・復習・問題演習			

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野からとらえ、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめている。	定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。
思考・判断・表現	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	
主体的に学習に取り組む態度	歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとしている。	

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

基礎基本的事項を的確に理解することに努め、諸課題について理論的に考察し、考える姿勢をもって取り組むこと。
日々、世界の情勢からその成り立ちや歴史について興味関心を持とう。

R6年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	地歴・世界史探究（普・理）	単位数	4	担当者	野口
---	----	-------	---------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

世界史探究（実教出版）
最新世界史図説 タペストリー（帝国書院）

2. 科目の目標

地球の誕生や人類の誕生を視野に入れつつ、古代文明の形成から現代に至る世界の歴史の展開を扱い、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みを基に、世界の歴史を大きく捉える

3. 学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	大交易時代 アジア諸地域の帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・東西文明の交流、近世のアジア・ヨーロッパの形成過程を理解する。 ・独立革命や産業革命とその後の民主政治への影響について理解する。 ・ウィーン体制下でのヨーロッパ諸国のナショナリズムや自由主義の動きと近代国家の形成の動きを理解する。 ・非ヨーロッパ圏での植民地化の過程とその抵抗について理解する。 ・帝国主義の特質と列強支配下でのアジア諸国の独立の動きを理解する。 ・二つの世界大戦の原因と過程、後世に与えた影響について理解する。 	70	既習範囲
	5月	近世ヨーロッパの形成と展開			
	6月	産業革命と大西洋革命			
	7月	近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家			
	8月	地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗			
	9月	第一次世界大戦と諸地域の変容 第二次世界大戦と戦後の国際秩序			
後期	10月	冷戦と現代社会	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次大戦後の東西対立と第三世界の発言力の拡大を理解する。 ・冷戦の終結後も続く地域紛争や貧困や環境破壊など世界規模の問題について考える ・問題集や入試問題を使い、入試に対応できる力を身につけさせる。 	70	既習範囲
	11月	世界経済の展開 科学技術の時代と知識基盤社会			
	12月	1年間のまとめ・復習・問題演習			
	1月				
	2月				
	3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	歴史的諸事象の来歴や変化に着目して、人類の歴史を理解できる。	定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。
思考・判断・表現	歴史的諸事象の来歴や変化に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し、表現している。	
主体的に学習に取り組む態度	現在と異なる過去や現在につながる過去にふれ、世界史学習の意味や意義について、主体的に理解を深めようとしている。	

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業プリントやノートをしっかりと、授業内容をよく理解すること。また、なるべく授業時間内でその日の授業内容を理解できるように、主体的に授業に取り組むこと。定期考査の度に自分の理解度を確認し、やりっぱなしにせず必ずやり直しをして理解を深めること。

R6年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	公民・政治経済(普・理)	単位数	2	担当者	福島
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

高校政治・経済 新訂版（実教出版） 最新図説政経（浜島書店）

2. 科目の目標

広い視野から民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治・経済・国際関係などについて客観的に理解する。実社会の諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。 共通テストをはじめとした大学等受験に対応した力も身につける。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	【現代の経済】 第1章 1 経済活動の意義 2 経済社会の形成と変容	・ 経済の基本的な考え方を理解し、現代日本経済の諸課題について考察し、現状認識を図り、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。	35	既習範囲
	5月	3 グローバル化と現代資本主義経済			
	6月	第2章			
		1 市場機構			
		2 現代の企業			
	7月	3 国民所得と経済成長			
	8月	4 金融のしくみ			
	9月	5 財政のしくみ			
	後期	10月			
11月		1 戦後復興と経済成長			
12月		2 経済の停滞と再生			
1月		3 日本の中小企業と農業			
2月		4 国民の暮らし			
3月		5 環境保全と公害防止			
11月		6 労使関係と労働条件の改善			
12月		7 社会保障の役割			
1月		第4章 世界経済と日本			
2月	1 商品・資本の流れと国際収支				
3月	2 国際経済体制の変化				
1月	3 金融のグローバル化と世界金融危機				
2月	4 地域経済統合と新興国の台頭				
3月	5 経済協力と人間開発の課題				
3月	【演習】 1 共通テストに対応した演習				既習範囲

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事項を理解し、その知識を身に付けているか。	定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。
思考・判断・表現	諸課題を見出し、多面的多角的に考察し、社会の変化や多様な考え方を踏まえながら公正に判断することができるか。	
主体的に学習に取り組む態度	現代の社会に関心を持ち、意欲的に課題を追究し、民主的な社会の実現に向けて良識ある公民として参加、協力する態度があるか。	

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

基礎基本的事項を資料集も活用しながら理解し、学習を通して社会の抱える諸課題に対してこれからの社会を担う一員として問題解決に向けて必要なことを理論的に考察し、考える姿勢をもって取り組むこと。授業の進捗がかなり早いので復習に重点を置くこと。
--

R5年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	公民・政治経済(森・イ)	単位数	2	担当者	野口
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

最新政治・経済 新訂版（実教出版） ライブ！公共 2023（帝国書院）
--

2. 科目の目標

広い視野から民主主義の本質に関する理解を深め、現代における経済・国際関係などについて客観的に理解する。実社会の諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。
--

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲			
前 期	4月	【現代の経済】 第1章 経済社会の変容と経済の仕組み 1 資本主義経済のしくみ 2 経済主体と経済活動	・ 経済の基本的な考え方を理解し、現代日本経済の諸課題について考察し、現状認識を図り、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。 ・ 現代の国際経済の諸課題及び日本経済と国際経済のかかわりについて考察し、現状認識を図り、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。	35	既習範囲			
	5月	3 市場経済						
	6月	4 景気変動と経済成長 5 財政のしくみとはたらき 6 租税と国債						
	7月	7 金融市場						
	8月	8 日本銀行と金融政策 9 インフレ・デフレ						
	9月	10 日本経済の発展 11 労働関係 12 社会保障制度						
	後 期	10月			第2章 国民経済と国際経済	・ 現代の国際社会の諸課題及び日本の国際社会における役割について考察し、現状認識を図り、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。	35	既習範囲
		11月			1 国際経済のしくみと現状			
		12月			2 為替相場のしくみ			
		1月			3 国際協調と国際経済機関の役割			
2月		4 国際経済の特質と地域的経済統合の動き						
3月	5 国際経済の諸問題と日本の役割	既習範囲						

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事項を理解し、その知識を身に付けているか。	定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。
思考・判断・表現	諸課題を見出し、多面的多角的に考察し、社会の変化や多様な考え方を踏まえながら公正に判断することができるか。	
主体的に学習に取り組む態度	現代の社会に関心を持ち、意欲的に課題を追究し、民主的な社会の実現に向けて良識ある公民として参加、協力する態度があるか。	

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

教室に配布される新聞や、ニュース番組などに目を通し、世の中で起きていることについて知り、これから生きていく社会を支える主権者としてどんな行動をとることが大切か、授業を通し、様々な意見に触れながら考えを深めていこう。

R6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	地歴・応用社会(森・イ)	単位数	2	担当者	高橋
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

なし

2. 科目の目標

地域の現状と課題を把握し、調査や探究活動を通すことでこれからの地域の担い手として必要な知識や技能、考え方・学び方を身に付ける。

3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	世界の今の故郷について 地域の現状と課題	35	
	5月			
	6月			
	7月			
	8月			
後期	9月	各時代ごとに複数の視聴覚教材を視聴し、それを参考にしながら、レポートにまとめることで、現代と過去の生活様式や文化、政治等を考察し、現代を生きる参考とする。	35	
	10月			
	11月			
	12月			
	1月			
	2月			
	3月			

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	現代社会の現状を理解し、考察できる。	授業の取り組み状況、提出物（レポート）を総合的に評価する。
思考・判断・表現	現代社会の現状や変化に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と関連づけ考察し表現できる。	
主体的に学習に取り組む態度	自分の住む地域とその他地域の現状にふれ、応用社会の学習の意味や意義について、主体的に理解を深めようとしている。	

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

基本的な知識を活用して社会の事象をどのようにとらえていくかを自ら考えながら学習を進めていく科目である。そのような事柄に興味関心を持つことがもっとも重要になってくる。
--